

株式会社 ニッキ

2026年3月期第2四半期決算説明会資料



持続的な成長・発展および企業価値の向上に向けて

2025年11月27日

(証券コード6042・東証STD)

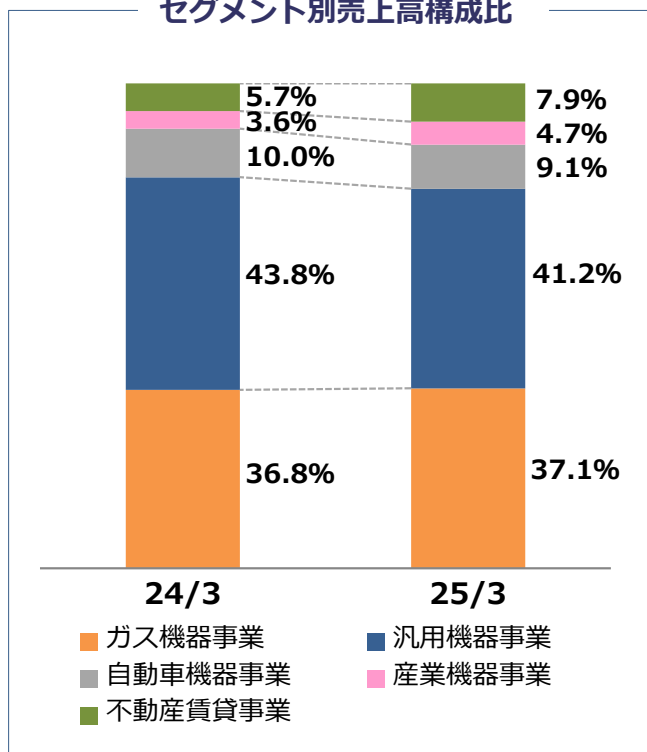
1. 会社概要
2. 2026年3月期第2四半期決算概要
3. 2026年3月期の業績見通し
4. 中期経営計画の取り組み状況
5. 参考資料

-
1. 会社概要
 2. 2026年3月期第2四半期決算概要
 3. 2026年3月期の業績見通し
 4. 中期経営計画の取り組み状況
 5. 参考資料

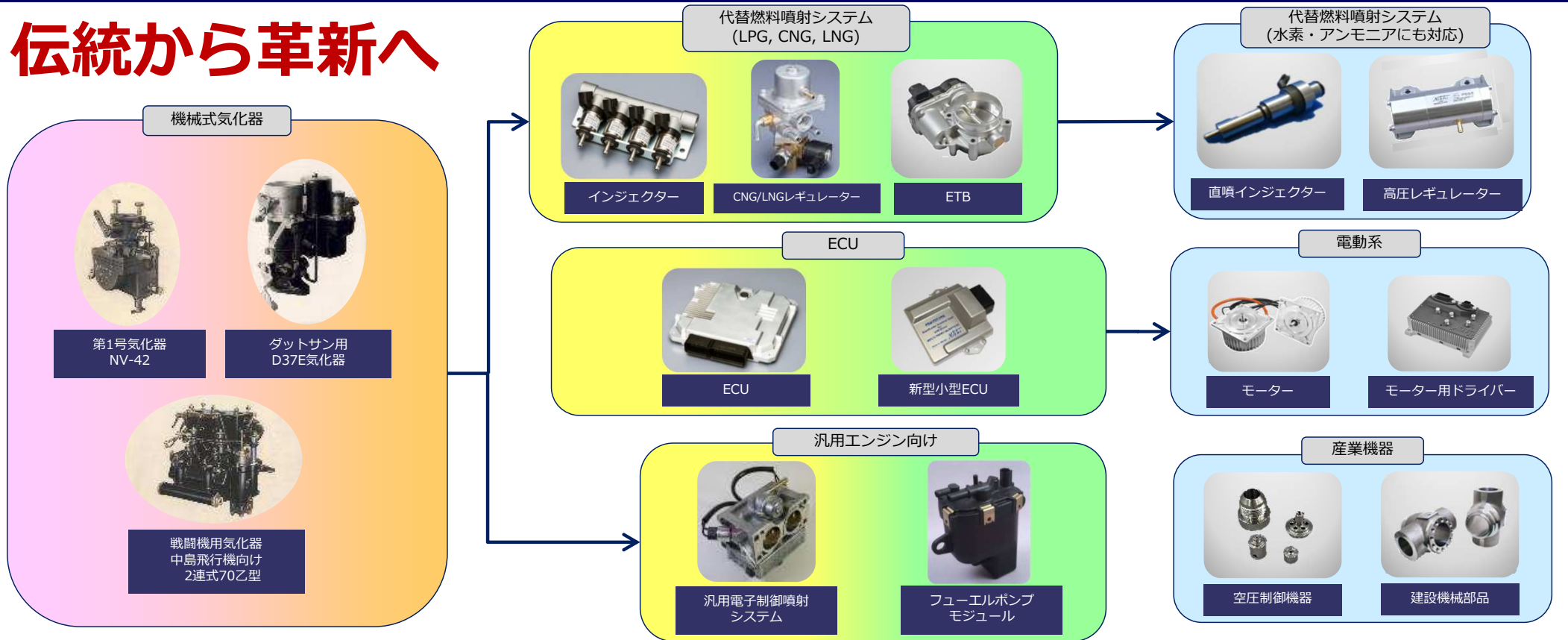
会社概要

商号	株式会社ニッキ
所在地	神奈川県厚木市上依知3029番地
資本金	500百万円
代表者	取締役社長 和田 孝
設立	1932年2月
従業員数	502名（連結ベース、2025年3月末）
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 天然ガス・LPG燃料供給システムの設計・開発および関連機器の製造 ■ 船舶・小型エンジン用気化器および燃料関連デバイスの設計・開発および製造 ■ 自動車エンジン用燃料関連デバイスの設計・開発および製造 ■ 空圧制御機器部品・建設機械部品の製造 ■ 水素・アンモニア燃料供給システムの設計・開発および関連機器の製造 ■ モーター制御機器・モーター制御プログラムの設計・開発 ■ 不動産賃貸事業
関係会社	<ul style="list-style-type: none"> ■ NIKKI AMERICA, INC. ■ 瀋陽日新気化器有限公司 ■ NIKKI INDIA FUEL SYSTEMS PRIVATE LIMITED ■ NIKKI (THAILAND) CO., LTD. ■ NIKKI KOREA CO., LTD. ■ (株)ニッキ ソルテック サービス、ニッキ・テクノ(株) ■ (株)神奈川精工 ■ 大島機工(株)

セグメント別売上高構成比



伝統から革新へ



- ・1932年2月 創立
- ・1933年3月 自動車・航空機エンジン用気化器開発
- ・1946年 自動車・農業エンジン気化器、燃料ポンプ開発
- ・1963年3月 自動車用LPGキャブレション装置開発
- ・1982年 自動車用電子制御気化器、自動車用スロットルボディ開発
- ・1985年 船舶機用気化器開発
- ・1991年 圧縮天然ガス燃料システム開発
- ・2001年 LPG電子制御気体噴射システム開発
- ・2006年 汎用電子制御噴射システム製造
- ・2009年 ガス用トップフィードインジェクター開発
- ・2010年 CNG用1段式レギュレーター開発
- ・2014年 LNG用1段式レギュレーター開発
- ・2015年 熱交換器開発
- ・2017年 新型小型ECU開発
- ・2017年 フューエルポンプモジュール開発
- ・2018年 ETB（重量車向け高耐久品）開発
- ・2020年 水素用インジェクター、レギュレーター開発
- ・2021年 48・72Vモータードライバー開発
- ・2021年 アンモニア用インジェクター、レギュレーター開発
- ・2023年 水素用筒内直噴インジェクター開発
- ・2024年 産業機器部品製造



事業部門の構成と製品

事業セグメント	ガス機器事業	汎用機器事業	自動車機器事業	産業機器事業	水素・電動系関連事業	不動産賃貸事業
市場	日本、北米、中国、インド、ヨーロッパ	米国、中国、日本	北米、日本、インド、東南アジア、中東	日本	中国、インド、ヨーロッパ、日本	東京都内に賃貸用ビルを4棟所有
主要顧客	いすゞ自動車 グローバルコンポーネントテクノロジー 豊田自動織機 広西玉柴機器（中） 三一集団（中） 東風康明斯（中） 福田康明斯（中） Maruti Suzuki（印） Westport（欧）	Briggs & Stratton（米） Rehiko（米） Cummins Power Generation（米） 常柴股份有限公司（中） 光陽工業（台湾） 川崎重工 ヤンマー パナソニック クボタ	グローバルコンポーネントテクノロジー 日産自動車 トヨタ自動車 マツダ RANE（印） Tokai Imperial Rubber（印） ZF Commercial Vehicle（印）	SMC アズビル コマツ ダイワ精機	中国EVメーカー インド農機メーカー Westport（欧） 日本農機メーカー 日本防災ポンプメーカー 日本空調機器メーカー等	本社厚木工場用地の一部を賃貸中
製品	<ul style="list-style-type: none"> CNG車、LPG車、フォークリフト向けの燃料供給システム（ECU、インジェクター、ベーパーライザー、レギュレーター、熱交換器、フィルター、ミキサー、ETB、EGRバルブ等） 	<ul style="list-style-type: none"> 汎用気化器（農業用、産業用）、船舶用気化器、二輪車向け噴射システム、フューエルポンプモジュール、GHP機器等 	<ul style="list-style-type: none"> ガソリン車用のスロットルボディ、気化器、アクセルワイヤユニット、ダィキャスト部品、フォークリフト向けキャブレター 	<ul style="list-style-type: none"> 空圧制御機器部品・建設機械部品・精密部品等 <div> (注)2023年9月に、(株)神奈川精工を子会社化し産業機器事業を開始。 2025年9月に、大島機工(株)を子会社化し産業機器事業を拡大。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> モーター&ドライバー、電動ブレーキブースター、スマートバルブ、水素用燃料供給システム（インジェクター、レギュレーター、エアバルブ） 	
生産拠点	日本、中国、タイ	インド、中国、日本	日本、インド	日本	日本、中国、インド	

当社の強み 1

■ ニッキのモノづくりを支える基盤技術

① 流体制御技術と機械技術

制御機構の最適化により、液体から気体までの幅広い燃料を制御する流体制御と機械制御の技術

⇒ ガスインジェクター

レギュレーター

遮断弁

ETB(Electric Throttle Body)

ポンプ等

流体制御技術と 機械技術

流体制御機構

② 電子制御技術

外気温、大気圧、エンジン稼働条件などによつて的確な燃料噴射・点火・スロットル制御を実施し、最適な燃焼、スムーズな加速・トルク、排ガス浄化を実現する電子制御のための開発手法とソフトウェア対応ノウハウ

⇒ 制御プログラム

電子制御技術

エンジン制御プログラム



機能安全規格ISO26262を取得するとともに、ソフトウェアの開発/検証手法を確立

③ 電子回路技術

厳しい使用環境・条件に耐え、制御対象をセンシングしてエンジンを制御するコンパクトで高信頼性なECUを設計・製造する技術

⇒ ECU(Electronic Control Unit)

ECM(Electronic Control Module)

電子回路技術

エンジン情報感知

④ 多種・多様な基礎技術

長年にわたり培われた多種・多様な基礎技術に裏付けされた製品化するための高度な加工技術

⇒ M/C加工、NC旋盤、樹脂成型、ダイキャスト、プレス加工、自動組立装置、自動検査装置などの幅広い生産技術

多種・多様な基礎技術

製造プロセス

当社の強み 1 - (1)

■ 加工技術の応用展開

当社の強みである高精度なM/C加工やNC旋盤加工は、自動車分野にとどまらず、産業機器など非自動車分野への応用展開にも十分な競争力を備えている。そのため、精密加工技術の高度化を進めるとともに長年培ってきたガス機器関連技術等との融合を図ることで、新たな市場ニーズへの対応力を高め、産業機器分野への事業展開を進める。

精密加工技術の高度化



ガス機器関連技術等との融合



産業機器分野へ応用展開

ニッキの加工技術



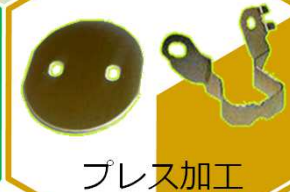
NC旋盤加工



M/C加工



樹脂成型



プレス加工

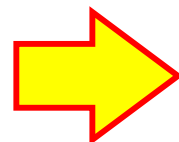


ダイキャスト

当社の強み 1 - (2)

■ 水素燃料への対応

流体制御技術を活用



水素用制御機器を開発

水素は、使用してもCO2を排出しない次世代のエネルギーとして期待されている。
ニッキは既存のガス事業技術（流体制御技術）を活用し、水素用制御機器を開発。

燃料電池車

Fuel Cell Electric Vehicle



Motor Fuel cell stack Hydrogen tank

水素エンジン車

ICE (Internal Combustion Engine)



H₂ engine Hydrogen tank



コントロールバルブ

インジェクター



エアバルブ

スロットルボディ



高圧レギュレーター



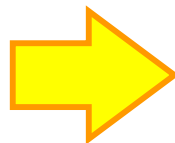
安全弁

ニッキ水素用制御機器は、燃料電池車、水素エンジン車のどちらにも対応可能

当社の強み 1 - (3)

■ 電動化への対応

電子制御技術、電子回路技術を活用



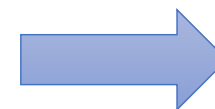
サーボモーター&ドライバーを開発

電子制御技術、電子回路技術を活用し、高応答・高精度な位置決めを得意とするサーボモーターを開発

さまざまなモーターが使われている自動車・産業機器では、高出力で高効率なサーボモーター&ドライバーの開発は、カーボンニュートラルの実現に大きく貢献



芝刈り機製品類



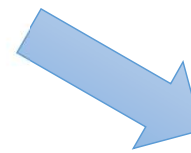
農機製品類



ポンプ製品類



車両補機製品類(EBB・アクチュエーター等)

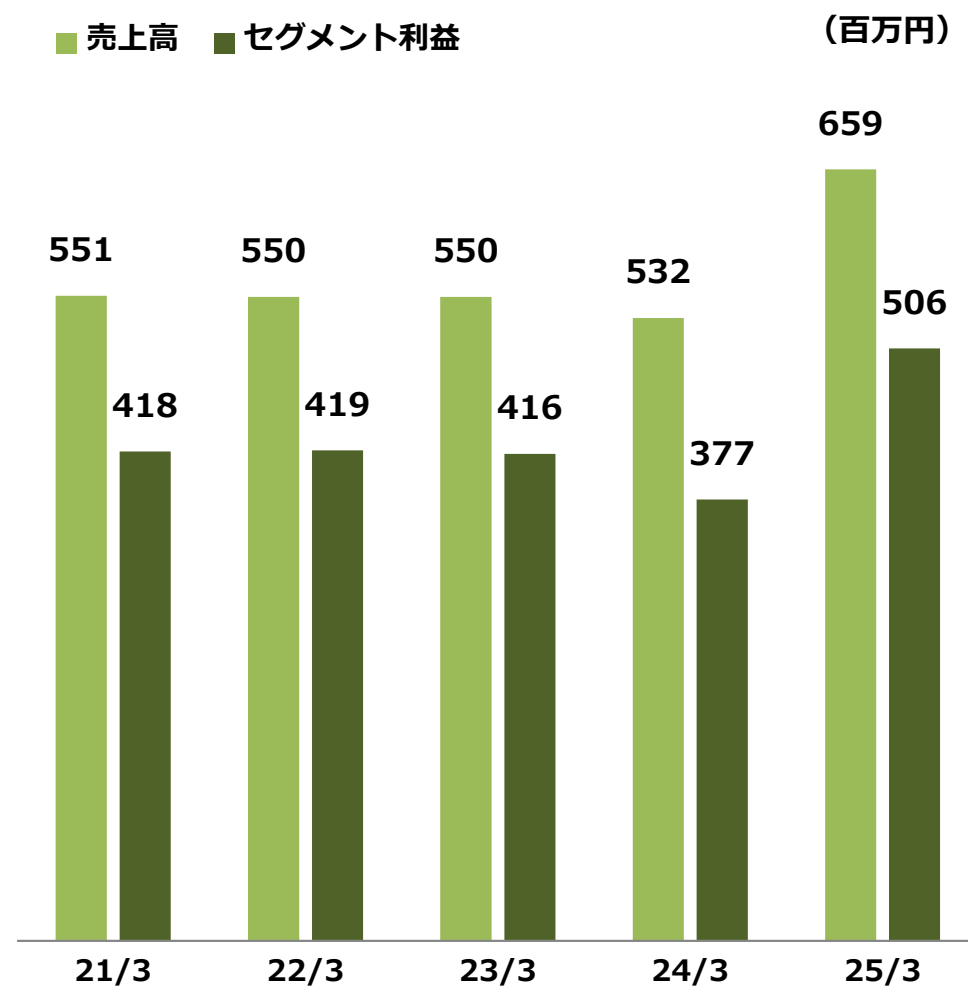


除雪機製品類

当社の強み 2

■ 保有不動産からの安定収益

不動産賃貸事業推移



- ・ 東京都内に賃貸用ビルを4棟所有。
- ・ 本社厚木工場用地の一部を賃貸中。
- ・ 本社厚木工場用地の賃貸倉庫の本格稼働開始等により増収増益。

-
1. 会社概要
 2. 2026年3月期第2四半期決算概要
 3. 2026年3月期の業績見通し
 4. 中期経営計画の取り組み状況
 5. 参考資料

2026年3月期第2四半期累計 連結損益の概況

売上高 : フォークリフト向け部品の販売回復の遅れ等の影響により減少。

利 益 : 売上高の減少等の要因により減少。

(単位 : 百万円、下段は構成比)

	2025年3月期第 2四半期累計	2026年3月期第2四半期累計				
		実績	前期比	当初計画 (5/15公表)	計画 (7/29公表)	計画比
売上高	4,842 (100.0%)	4,278 (100.0%)	▲11.6%	3,900 (100.0%)	4,000 (100.0%)	+7.0%
売上総利益	1,657 (34.2%)	1,435 (33.5%)	▲13.4%	—	—	—
販管費	990 (20.5%)	910 (21.3%)	▲8.1%	—	—	—
営業利益	666 (13.8%)	524 (12.3%)	▲21.3%	200 (5.1%)	400 (10.0%)	+31.1%
経常利益	694 (14.3%)	601 (14.1%)	▲13.4%	220 (5.6%)	400 (10.0%)	+50.3%
親会社株主に帰属 する中間純利益	534 (11.0%)	443 (10.4%)	▲17.1%	150 (3.8%)	300 (7.5%)	+47.8%

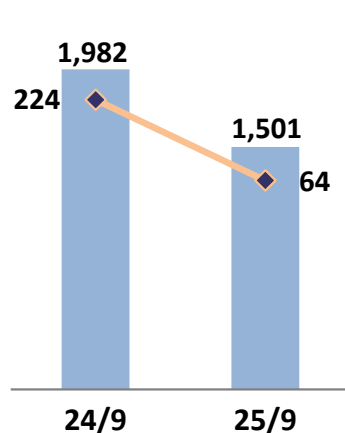
2026年3月期第2四半期累計 セグメント別の概況

(単位：百万円)

ガス機器事業

売上高 ▲24.2%
利益 ▲71.1%

売上高 利益

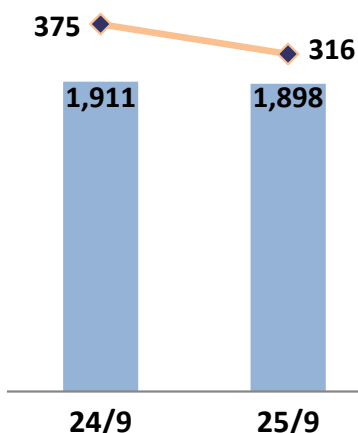


➤ フォークリフト向け部品の販売減少等により減収減益

汎用機器事業

売上高 ▲0.7%
利益 ▲15.6%

売上高 利益

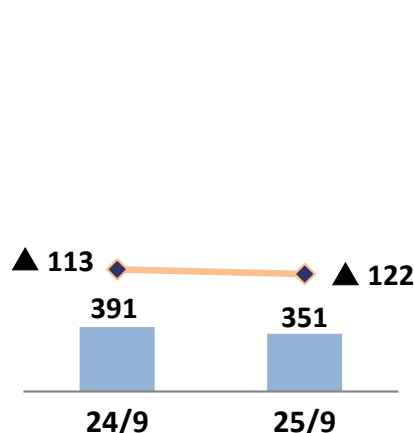


➤ 主要マーケットである米国市場の在庫調整の長期化等の影響により減収減益

自動車機器事業

売上高 ▲10.3%
利益 ▲7.8%

売上高 利益

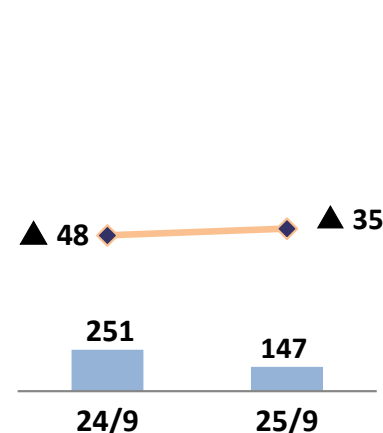


➤ フォークリフト向けキャブレターの販売減少等により減収。損益については営業損失拡大

産業機器事業

売上高 ▲41.3%
利益 +27.1%

売上高 利益

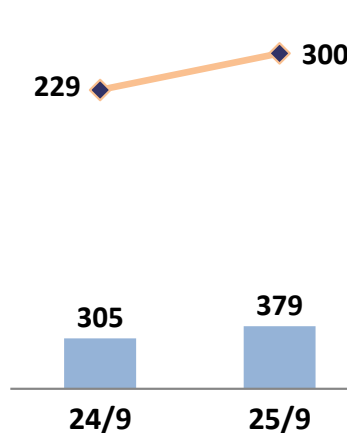


➤ 販売先の在庫調整の影響等により減収となるが、営業損失は縮小

不動産賃貸事業

売上高 +24.1%
利益 +31.1%

売上高 利益



➤ 本社厚木工場用地の賃貸倉庫の本格稼働開始等により増収増益

2026年3月期第2四半期 連結貸借対照表の概況

(単位：百万円、下段は構成比)

		2025年3月期末	2026年3月期第2四半期		
				前期比増減額	主な増減要因
資産	流動資産	9,415 (40.3%)	9,278 (39.3%)	▲137	【流動資産】 ・ その他流動資産 ▲287 ・ 商品及び製品 ▲211 ・ 現金及び預金 ▲107 ・ 売掛金 +487
	固定資産	13,952 (59.7%)	14,308 (60.7%)	+356	【固定資産】 ・ ソフトウェア +304
	資産合計	23,367 (100.0%)	23,587 (100.0%)	+219	
負債・純資産	流動負債	5,673 (24.3%)	5,816 (24.7%)	+142	【流動負債】 ・ 未払法人税等 +74 ・ 短期借入金 +50
	固定負債	4,630 (19.8%)	4,578 (19.4%)	▲52	【固定負債】 ・ 長期借入金 ▲111 ・ 退職給付に係る負債 ▲51 ・ その他固定負債 +109
	負債合計	10,304 (44.1%)	10,394 (44.1%)	+89	
	純資産合計	13,063 (55.9%)	13,192 (55.9%)	+129	・ 利益余剰金 +238 ・ その他有価証券評価差額金 +186 ・ 為替換算調整勘定 ▲308
	負債・純資産合計	23,367 (100.0%)	23,587 (100.0%)	+219	
ネット有利子負債		3,856 (16.5%)	3,902 (16.5%)	+46	

※ネット有利子負債＝（短期借入金＋長期借入金）－（現金及び預金）

2026年3月期第2四半期累計 連結キャッシュフローの概況

(単位：百万円)

		2025年3月期 第2四半期累計		2026年3月期第2四半期累計	
				主な内容	
	営業キャッシュフロー	167	960	・税金等調整前中間純利益	629
				・減価償却費	352
				・法人税等の還付	278
				・その他の増加	126
				・棚卸資産の減少	124
				・売上債権の増加	▲519
				・法人税等の支払	▲128
	投資キャッシュフロー	▲216	▲625	・定期預金の払い戻しによる収入	249
				・連結範囲の変更を伴う子会社株式 の取得による支出	▲327
				・定期預金の預け入れによる支出	▲262
				・有形固定資産の取得による支出	▲167
フリー・キャッシュフロー		▲49	335		
財務キャッシュフロー		668	▲332	・配当金の支払額	▲204
				・長期借入金の返済による支出	▲104
換算差額等		54	▲113		
現金及び現金同等物の期末残高		4,504	3,581		
設備投資額		308	229		
減価償却費		432	352		

-
1. 会社概要
 2. 2026年3月期第2四半期決算概要
 3. 2026年3月期の業績見通し
 4. 中期経営計画の取り組み状況
 5. 参考資料

2026年3月期 連結損益の見通し

(単位：百万円)

	2025年3月期実績		2026年3月期計画		
		構成比		構成比	前期比
売上高	8,360	100.0%	8,300	100.0%	▲0.7%
営業利益	885	10.6%	750	9.0%	▲15.3%
経常利益	649	7.8%	800	9.6%	23.2%
親会社株主に 帰属する当期純利益	630	7.5%	600	7.2%	▲4.8%
設備投資額	714	8.5%	253	3.1%	▲64.5%
減価償却費	843	10.1%	731	8.8%	▲13.2%

■業績見通し

- 上期は、売上高は中国市場向けガス製品および米国市場向け汎用製品の販売が予想よりも堅調に推移したこと等により予想値を上回る結果となった。損益面は売上高の増加や為替相場が想定よりも円安基調で推移したこと等により、予想値を上回る結果となった。
- 通期の見通しについては、上記の要因等の影響もあるため、前回予想値を上回る見込み。

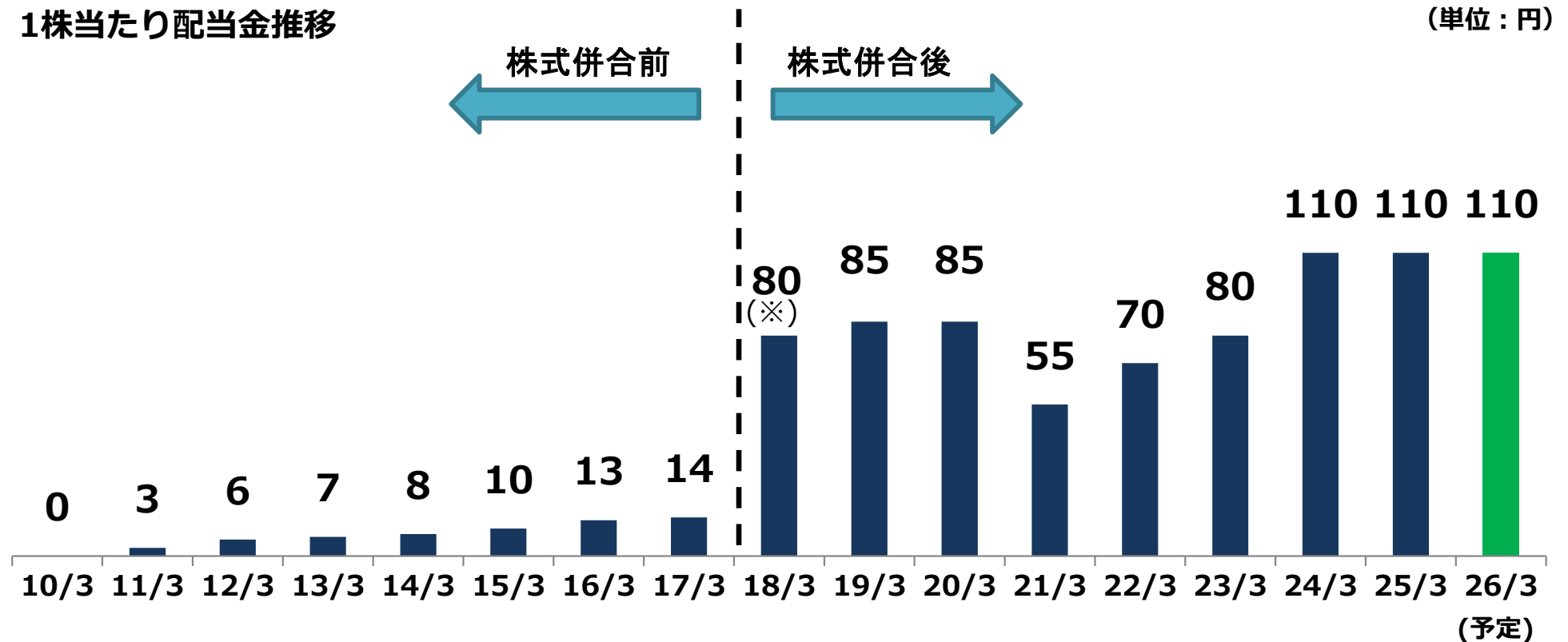
■重点施策

- 新規事業～産業機器事業は生産体制・生産設備を最大限活用し、更なる受注獲得と売上拡大を図る。水素・電動関連ビジネスは市場動向を踏まえて確実な量産受注獲得と売上拡大を図る。
- ガス機器事業～中国市場は需要動向を早期に把握し、売上増に繋げる。インド市場はCNG/LNGビジネスの拡販体制を強化し、確実な受注と売上増に繋げる。
- 汎用機器事業～米国市場向け汎用機器は拡販活動の強化による新たな製品の受注獲得と売上拡大を図る。米国市場以外の新たな市場拡大に積極的に対応し、新規受注に繋げる。

株主還元方針

- ・ 安定配当をベースに業績及び経営環境等を総合的に加味した配当の継続を基本方針としており、2026年3月期は2025年3月期と同額の110円を予定
(※当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施)
- ・ 資本効率の向上を勘案し、自己株式の取得等について今後も弾力的に実施・検討
- ・ 配当性向：今後更なる株主還元の強化を図るために、配当性向（現在は30%目標）の見直し等を進める

1株当たり配当金推移

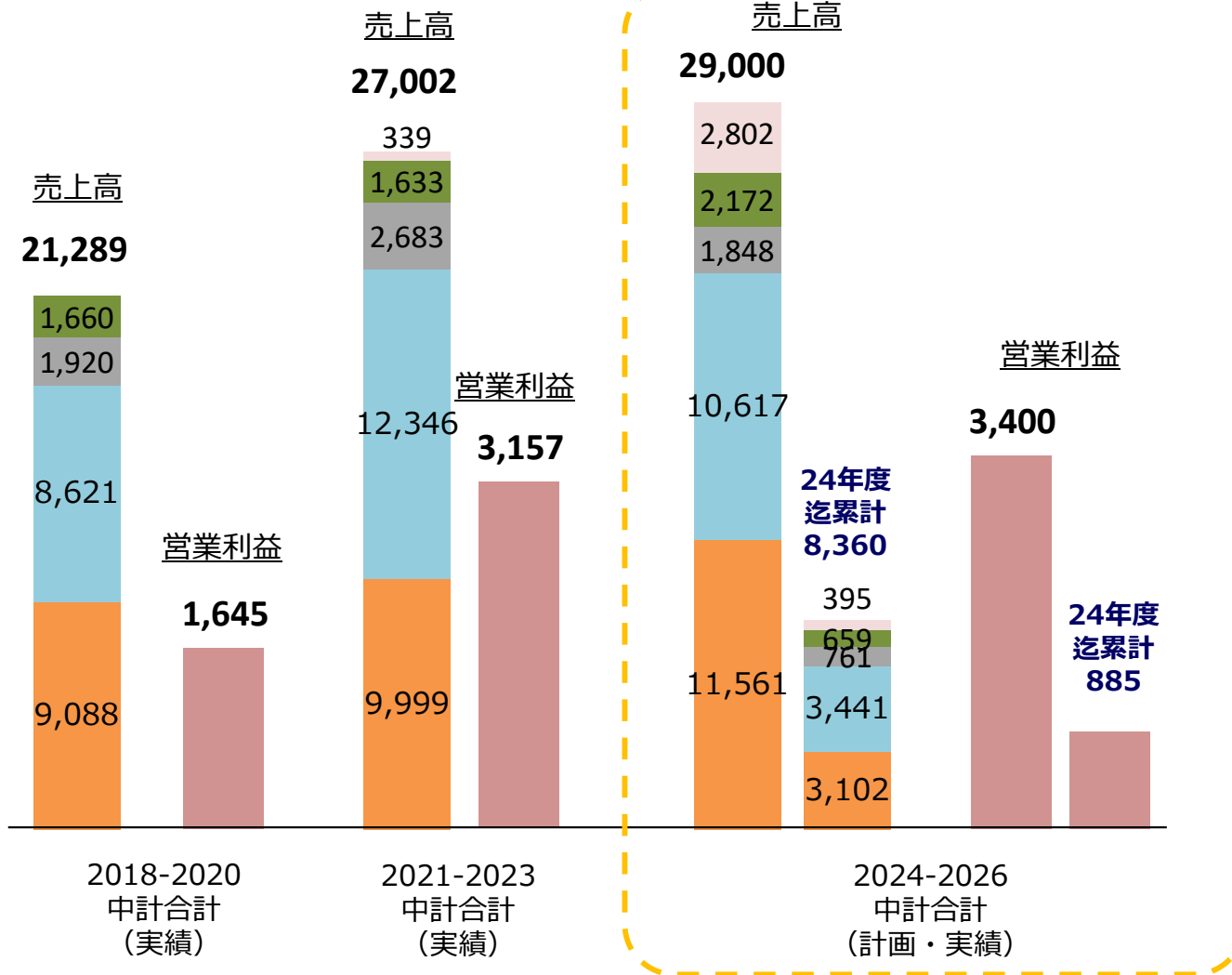


-
1. 会社概要
 2. 2026年3月期第2四半期決算概要
 3. 2026年3月期の業績見通し
 4. 中期経営計画の取り組み状況
 5. 参考資料

中期経営計画（2024～2026年度）および2024年度までの実績

■ ガス機器
 ■ 汎用機器
 ■ 自動車機器
 ■ 不動産
 ■ 新規(産業・電動系)
 ■ 営業利益

(単位：百万円)



<計数目標（連結）>
3力年合計

売上高	29,000百万円
営業利益	3,400百万円

中期経営計画の進捗状況

	重点方針・施策内容	進捗状況・その他
(1)	<p>成長軌道への転換・移行</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 成長事業・ボリュームゾーン事業分野への早期参入を図る ▷ 自動車関連に固執することなく、非自動車関連事業についても積極的に対応する ▷ 新たな事業領域の拡大に向けM&Aについても積極的な対応を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業機器事業の拡大に向けて、新規設備導入及び基盤となる技術力の向上を図り、販売可能部品の拡充を推進中 ・ 新たな中国エンジンメーカーからの新規受注獲得に向け活動継続中 ・ 成長産業に狙いを定め、ニッキの既存技術との融合可能な企業として新たに大島機工(株)のグループ化を実施
(2)	<p>優先的に取り組むべき新規事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 産業機器事業は、今後も拡大が見込める市場であり、当社の持つガス関連技術とのシナジー効果も期待できるため最優先での対応を図る ▷ 水素関連事業は、従来のガス技術との親和性も高く、今後の市場規模の拡大も見込まれるため積極的な対応を図る ▷ 電動系・メカトロ関連事業は、脱炭素により今後の主力市場になると考えられているため、収益性・採算性を見極め積極的な対応を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業機器事業において難切削材や特殊材に対応した加工技術向上に取り組み、更に高度な加工技術習得を計画的に推進中 ・ 国内外への水素製品供給により、各顧客にて商品化に向けた実証実験を展開中 ・ 当社の保有するモーター制御技術で応用可能な、農機を中心とした作業機分野に拡販と量産化を推進中
(3)	<p>資本コスト・株価を意識した経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 資本コストを勘案した設備投資判断の徹底、政策保有株式の縮減を更に進める ▷ 株主還元の強化を図るために、配当性向（現在は30%目標）の見直し等を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政策保有株式の一部を売却（2025年3月） 経済合理性を重要な基準として考慮し引き続き縮減を進める ・ 株主還元の対応策を検討中

〈当社の対応方針〉

事業構造の転換・見直しを推進
成長軌道への転換・移行

〈目指す姿〉

持続的な成長・発展
企業価値の向上

〈環境の変化〉

脱炭素・カーボン
ニュートラルへの
取り組みが一段と
加速

自動車産業は
100年に1度の
大変革期

「新たな将来の主力となるべき新規事業の創出・育成」

Point1

成長軌道への転換・移行

- ① 成長事業・ボリュームゾーン事業分野への早期参入
- ② 非自動車関連事業について積極的に対応
- ③ M&Aについても積極的に対応

Point2

優先的に取り組むべき新規事業

- ① 産業機器事業
- ② 水素関連事業
- ③ 電動系・メカトロ関連事業

産業機器事業について

- 株式会社神奈川精工・大島機工株式会社のグループ化の狙い

事業領域の拡大・事業規模の拡大

株式会社 神奈川精工 (2023年9月)

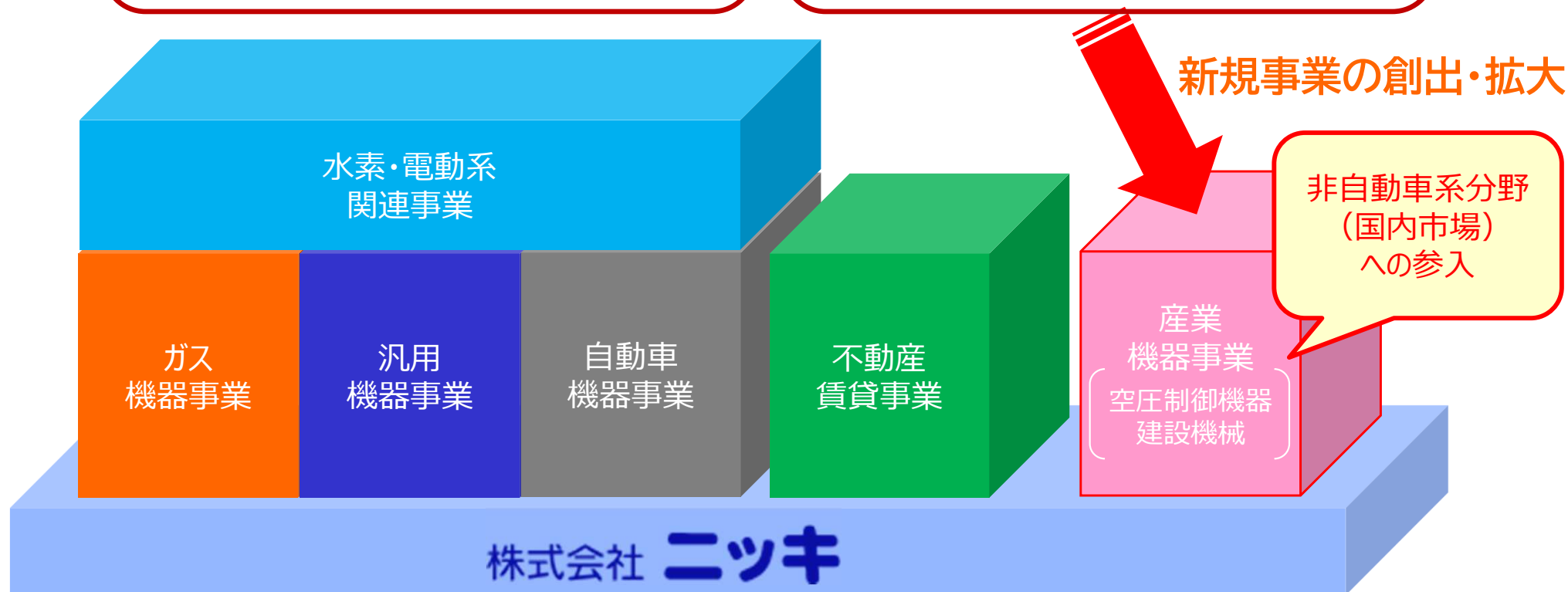
業務内容 : ステンレスを中心とした
精密部品の切削加工

主要取引先 : SMC他

大島機工 株式会社 (2025年9月)

業務内容 : 建設機械部品等の
切削加工・機械加工

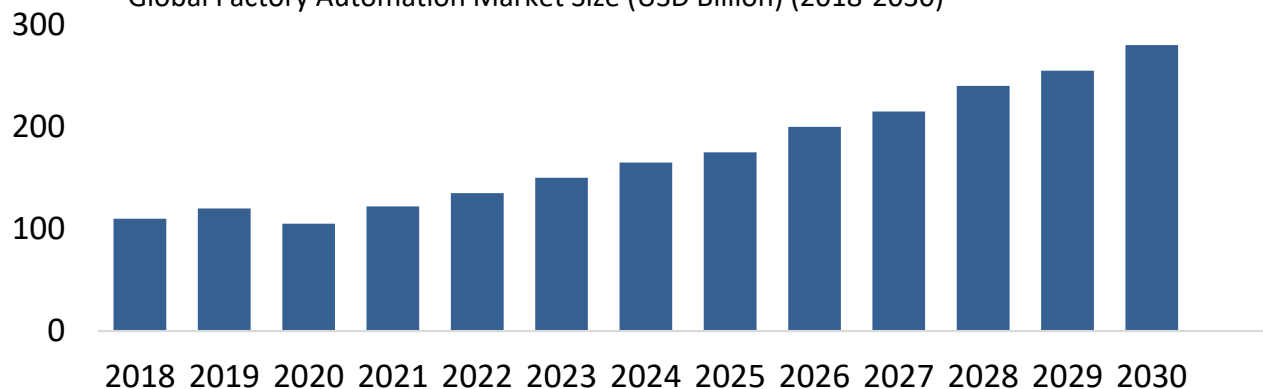
主要取引先 : コマツ他



産業機器事業について

FA市場の今後の展望

Global Factory Automation Market Size (USD Billion) (2018-2030)



FA市場を含む産業機器市場は、近年の技術革新や環境への配慮、グローバルな経済成長等により、市場の拡大が見込まれる

建設機械市場の今後の展望

Asia Pacific Construction Equipment Market Size, 2019-2032(USD Billion)



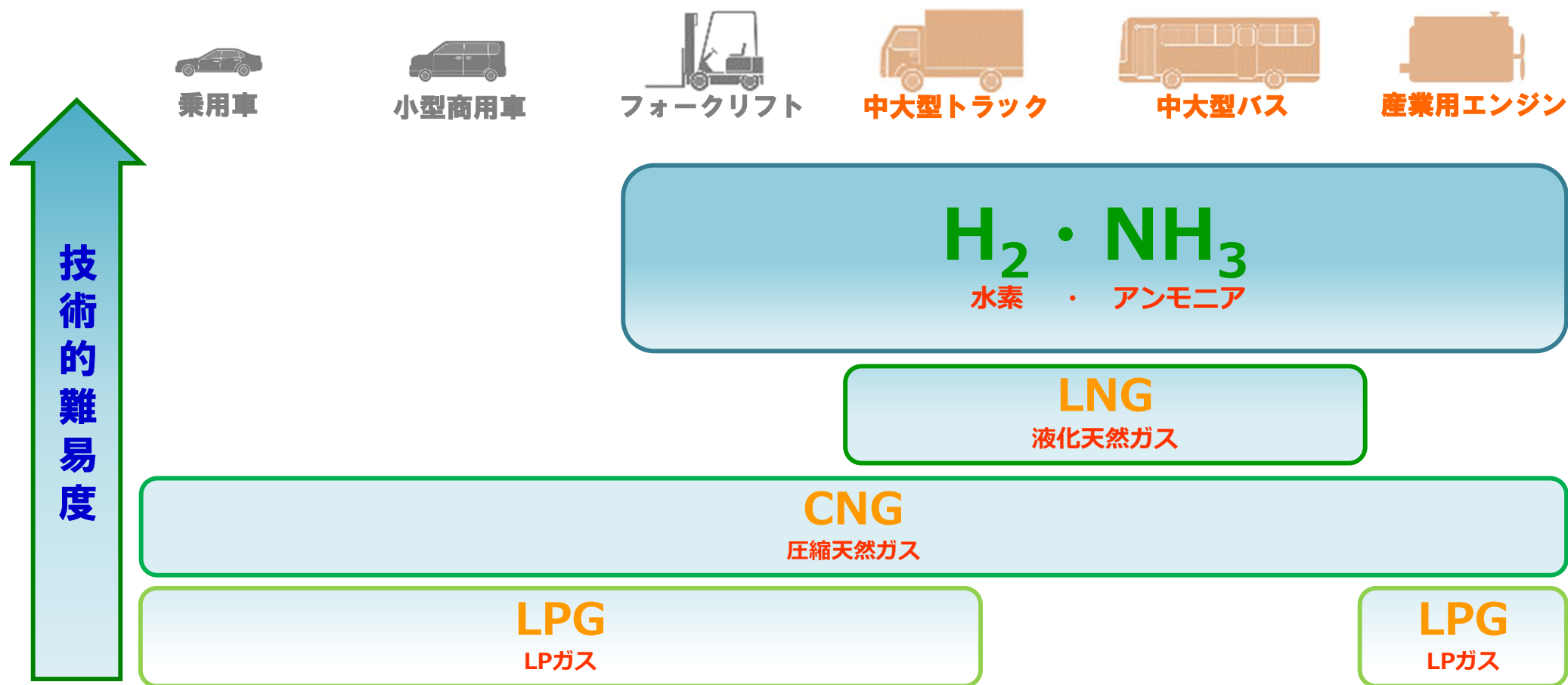
建設機械市場は、都市の発展やインフラ投資の増加、新興国における建設セクターの成長といった要因により市場の拡大が見込まれる

参考資料出典：STATZON社・H&I Global Research社 (統計調査会社)ホームページ

産業機器事業は今後も拡大が見込める市場

当社の持つガス関連技術及び精密加工技術とのシナジー効果も期待できる

代替燃料に対する取り組み



従来対応してきたLPG、CNG、LNG用製品に加えて、新たにカーボンニュートラルに有効な水素・アンモニア対応製品も開発（既存ノウハウの活用）
→ ガス～水素・アンモニアまで代替燃料の裾野を拡大

ニッキ水素製品 使用実績

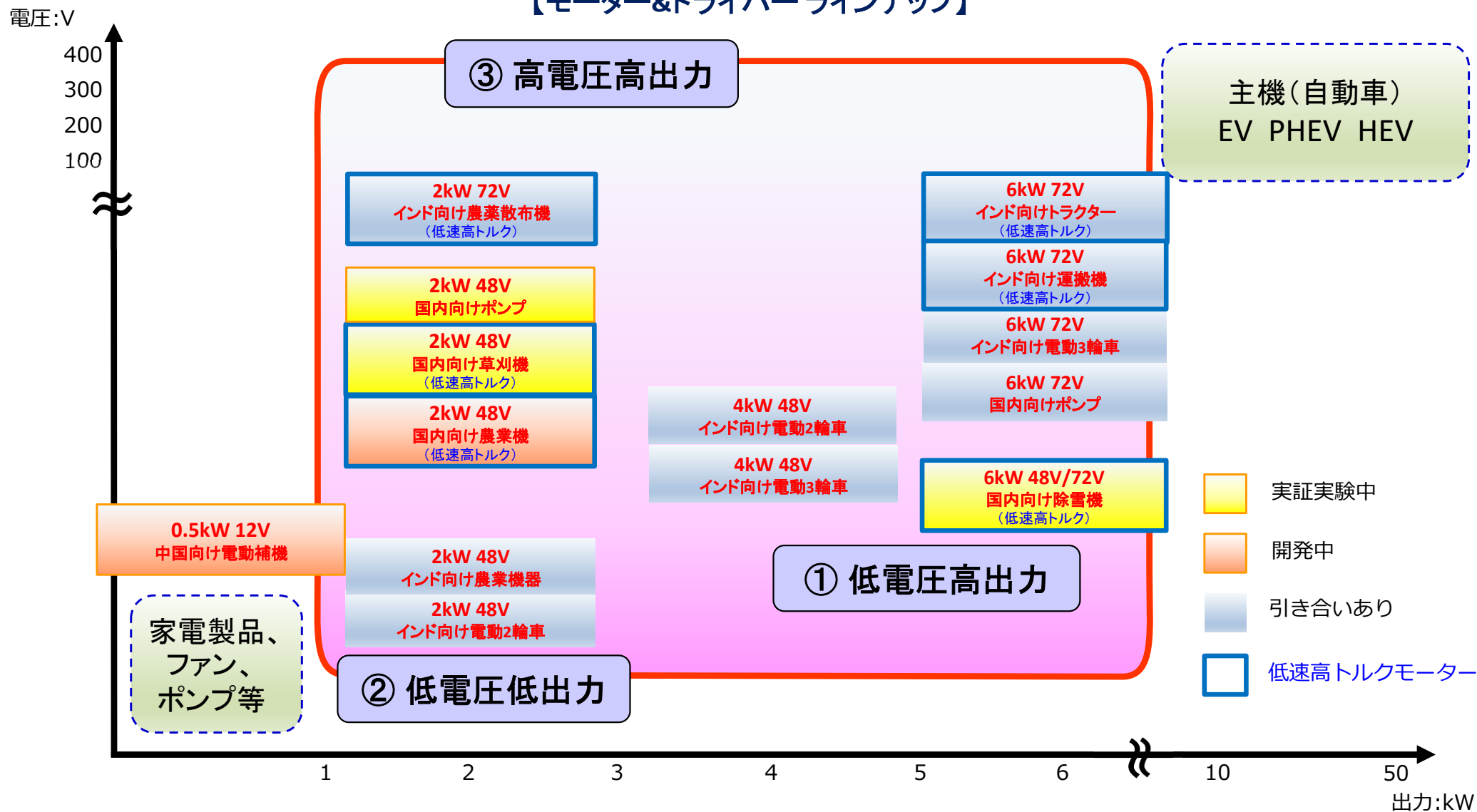
日本国内だけでなく、海外からもニッキ水素製品の引合いが届いており、ニッキ水素製品への期待が高まっています



仕向地	用途	ニッキ製品	状況
日本国内	水素エンジン発電機 (専焼)	インjekター	実証実験中
	水素エンジン発電機 (混焼 (LPG+水素))	インjekター、レギュレーター	モニター試験中
	商用車 (トラック)	インjekター、レギュレーター、ETB	モニター試験中
	鉄道車両	インjekター、レギュレーター、ETB	実証実験中
	研究用 (大学、研究所向け)	インjekター、レギュレーター	実証実験中
	Fuel Cell	インjekター	実証実験中
中国	商用車 (トラック)	インjekター、レギュレーター、ETB、 EGRバルブ	モニター試験中
欧州	水素エンジン発電機 (混焼 (ディーゼル+水素))	インjekター	量産移行中
	商用車 (トラック)	インjekター	量産移行中

参入分野を絞り、大手メーカーとの差別化を図る

【モーター&ドライバーラインナップ】

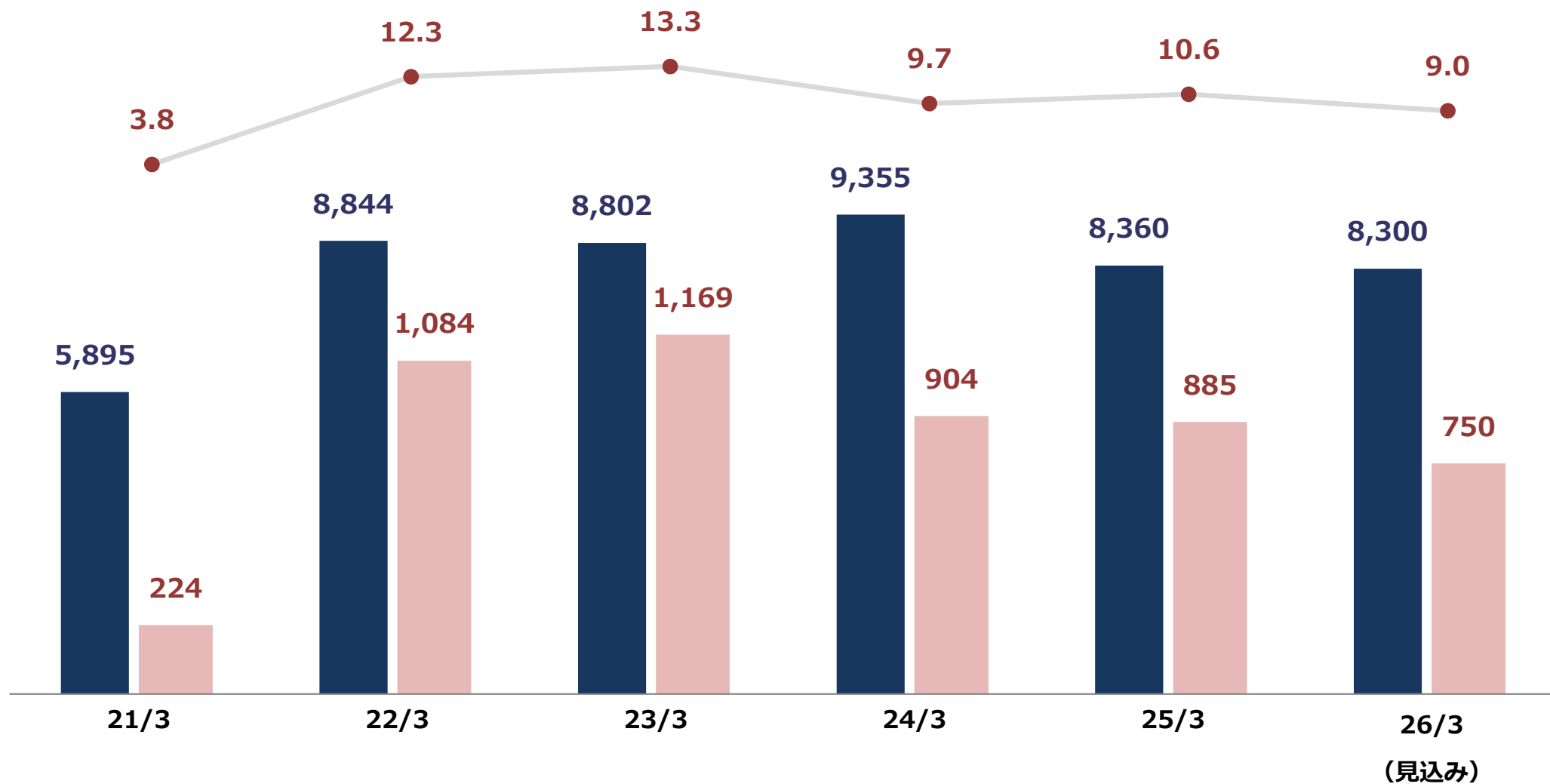


-
1. 会社概要
 2. 2026年3月期第2四半期決算概要
 3. 2026年3月期の業績見通し
 4. 中期経営計画の取り組み状況
 5. 参考資料

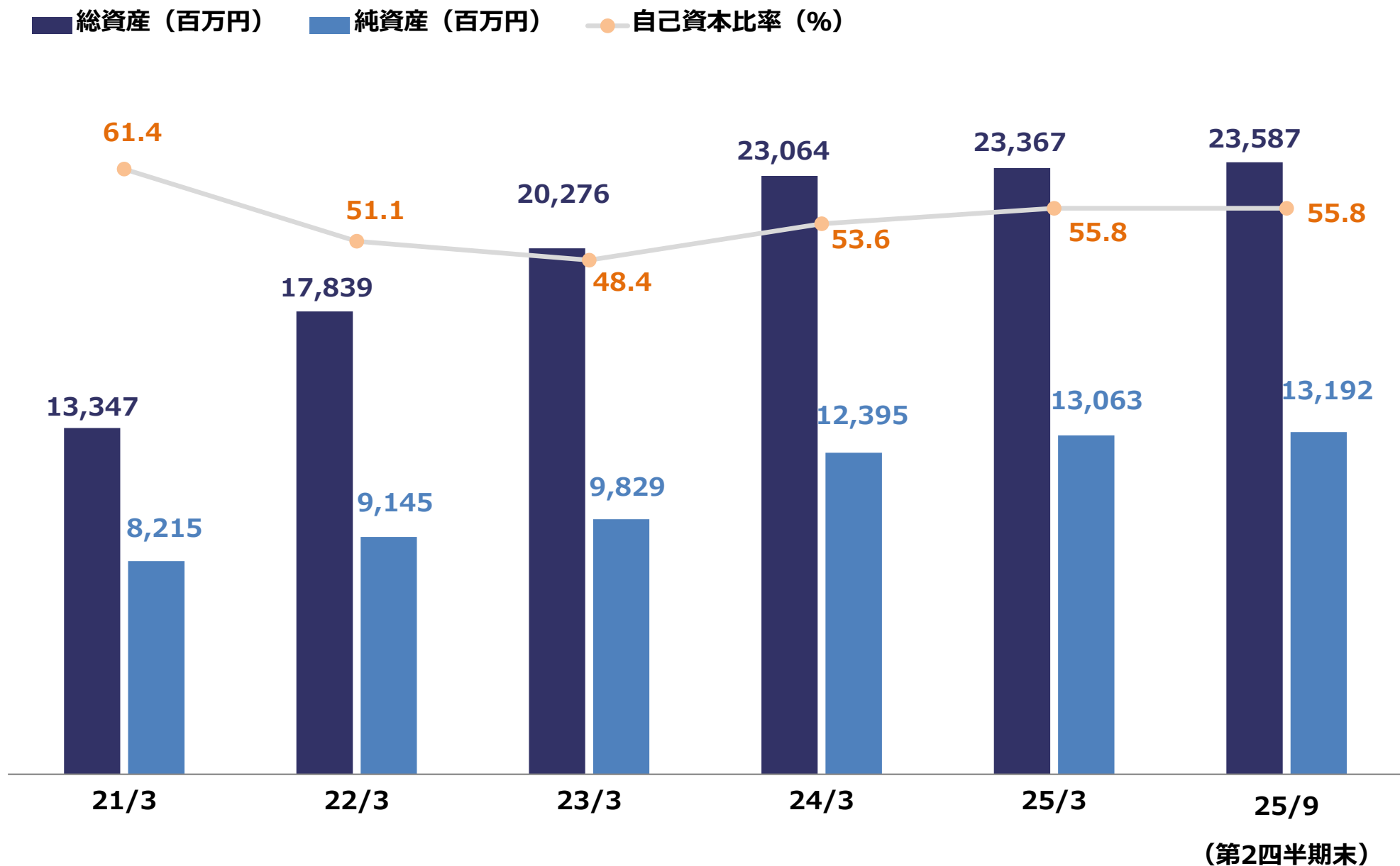
連結業績推移 (1)

■ 売上高 ■ 営業利益 ● 売上高営業利益率 (%)

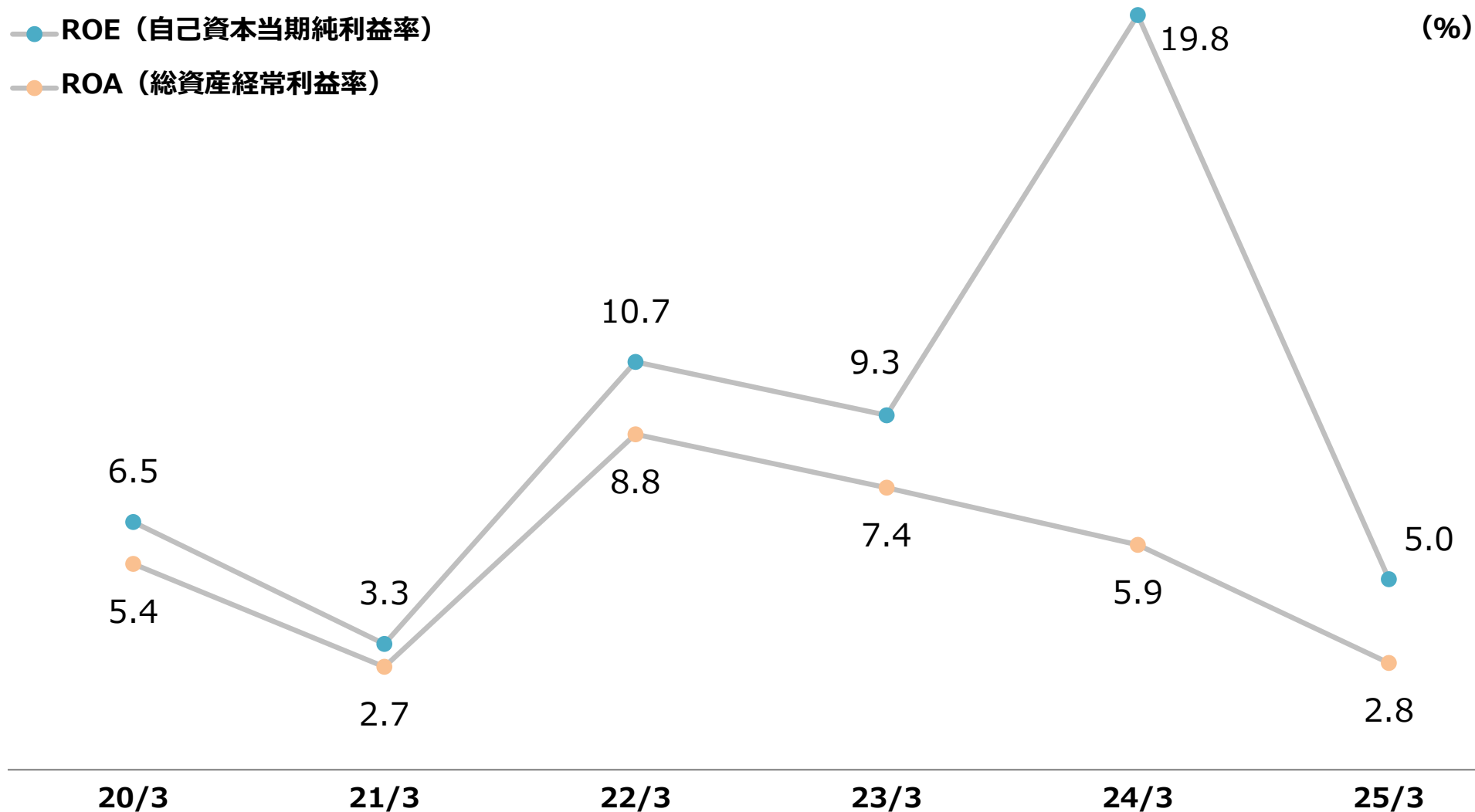
(百万円)



連結業績推移 (2)

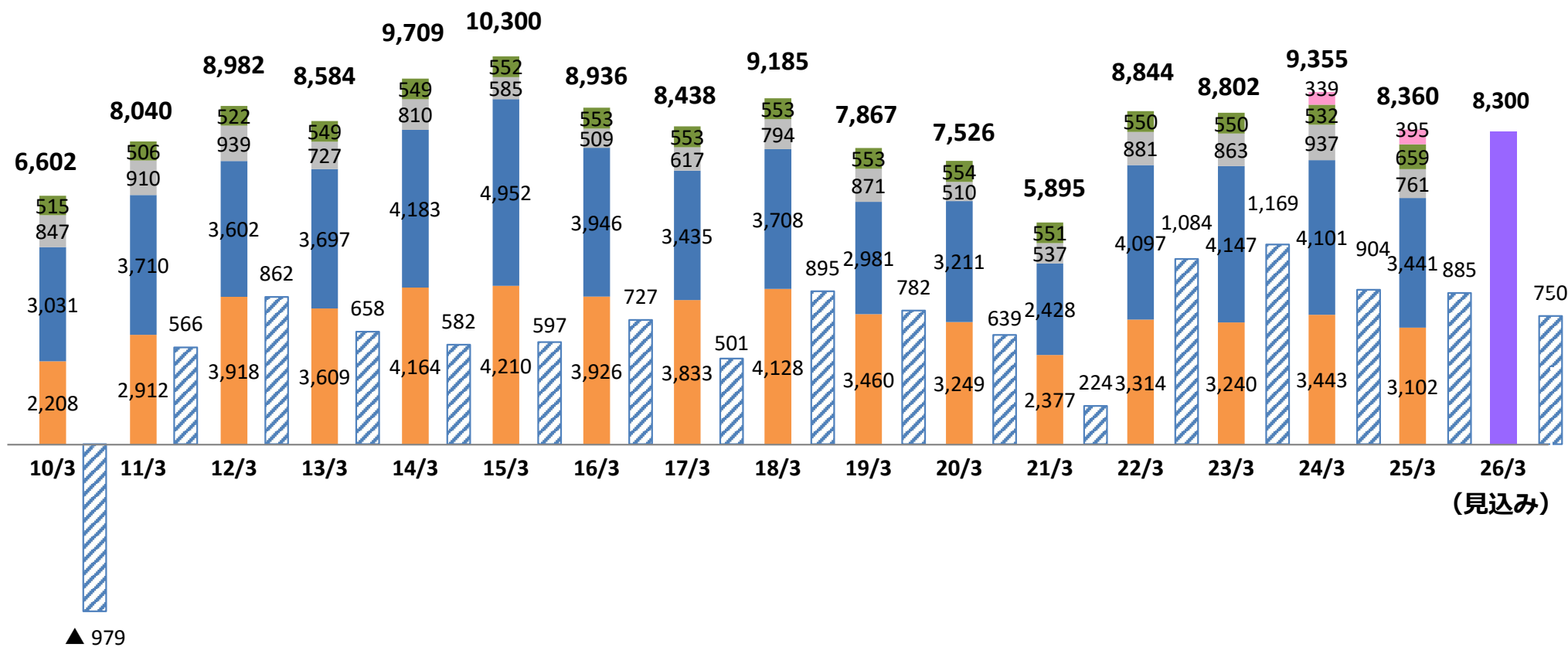


連結業績推移 (3)

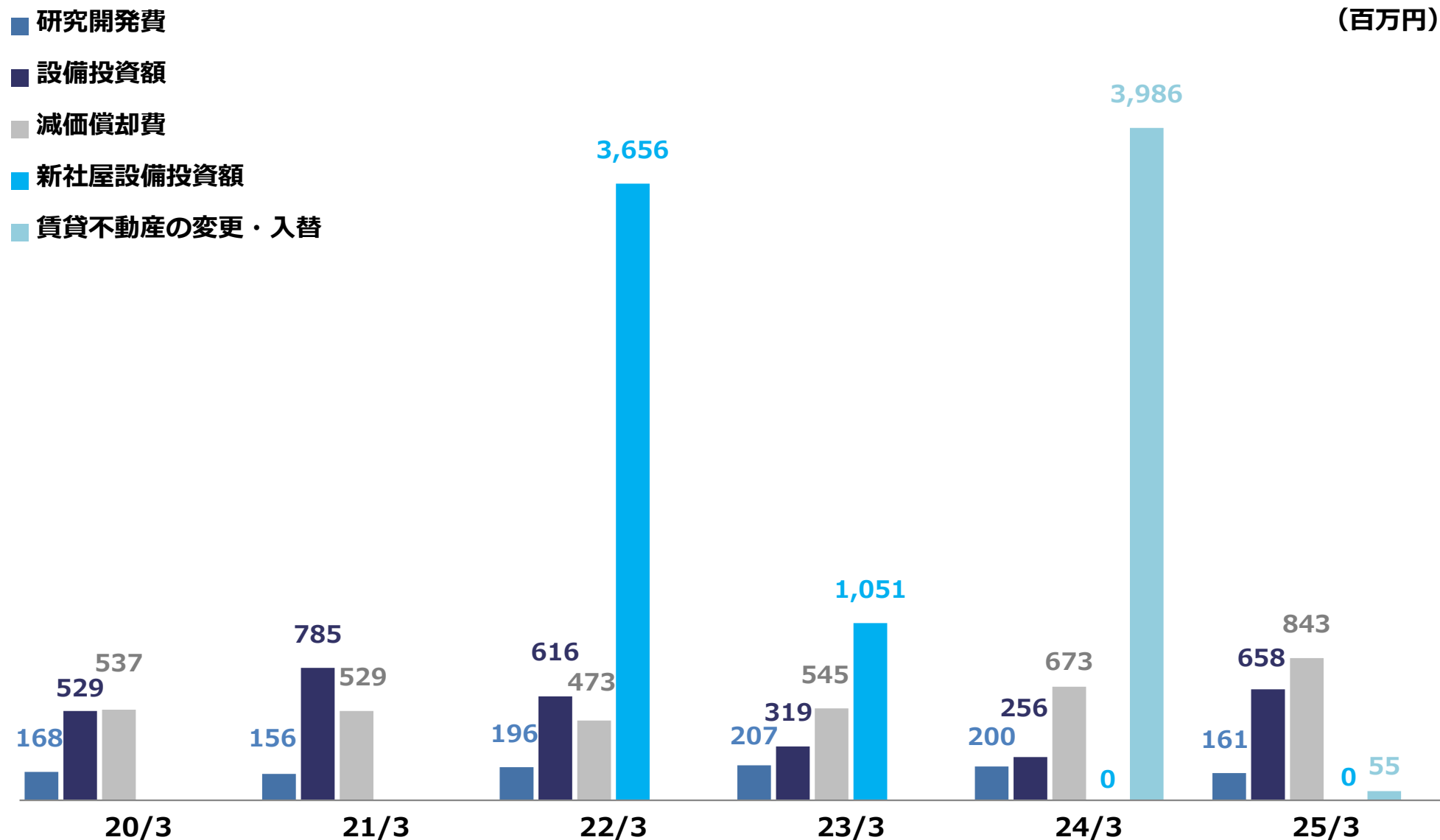


セグメント別外部売上高、連結営業利益推移

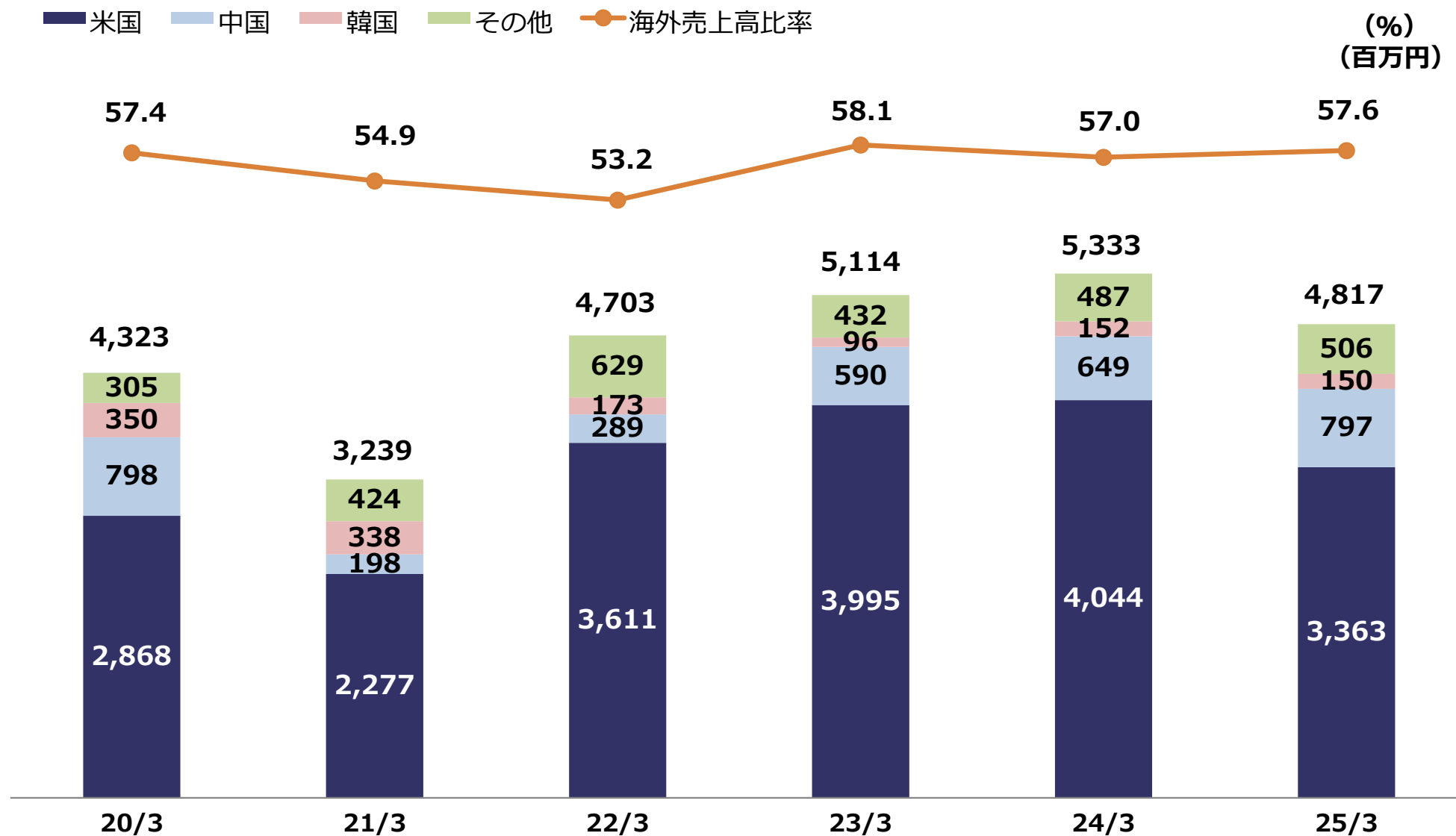
■ ガス機器事業
 ■ 汎用機器事業
 ■ 自動車機器事業
 ■ 不動産賃貸事業
 ■ 産業機器
 ▨ 営業利益
 (百万円)



研究開発費・設備投資額・減価償却費の推移



海外売上高推移

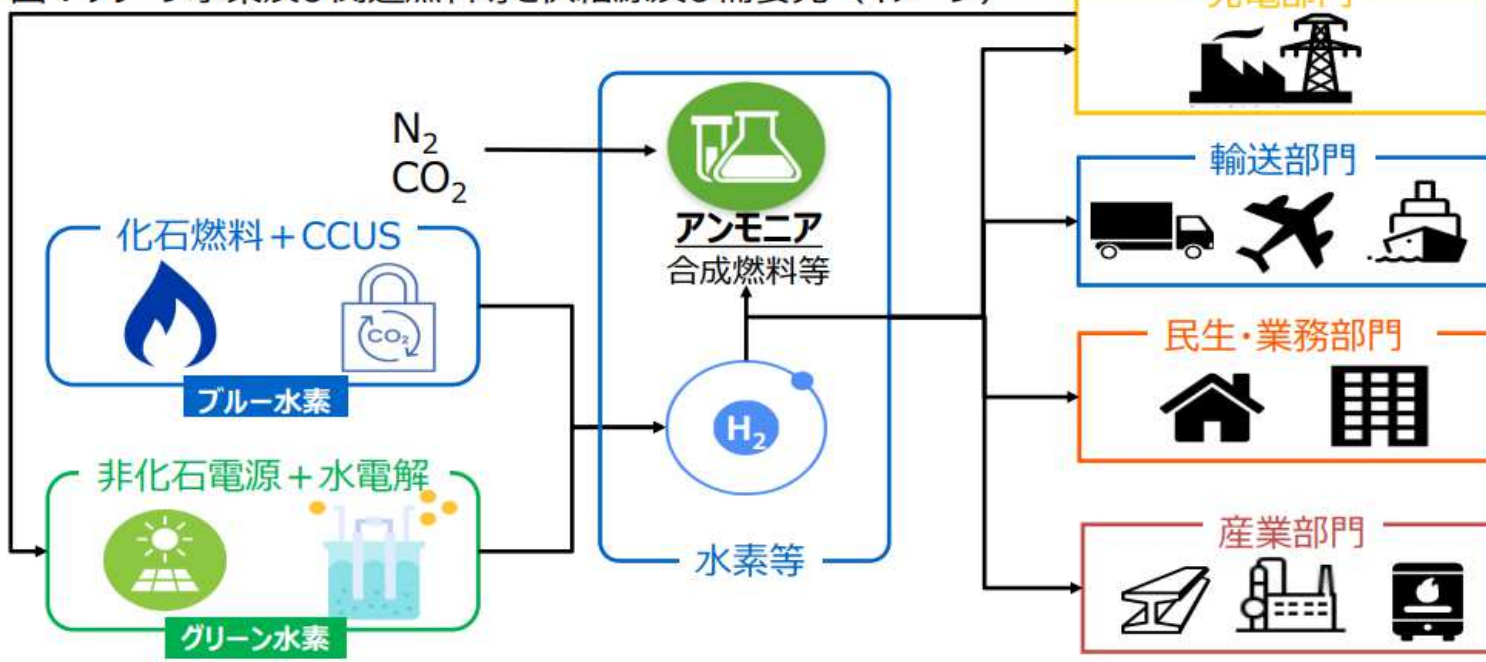


カーボンニュートラルに必要な水素

- 日本はエネルギー基本計画から水素を新たな資源と位置づけ、社会実装を加速させている。

- 水素は直接的に電力分野の脱炭素化に貢献するだけでなく、余剰電力を水素に変換し、貯蔵・利用することで、再エネ等のゼロエミ電源のポテンシャルを最大限活用することも可能とする。
- 加えて、電化による脱炭素化が困難な産業部門(原料利用、熱需要)等の脱炭素化にも貢献。
- また、化石燃料をクリーンな形で有効活用することも可能とする。
- なお、水素から製造されるアンモニアや合成燃料等も、その特性に合わせた活用が見込まれる。

図：クリーン水素及び関連燃料等と供給源及び需要先（イメージ）



資料出典: 2023年1月4日資源エネルギー庁水素政策小委員会/アンモニア等脱炭素燃料 政策小委員会 合同会議 中間整理資料

- 本資料は株式会社ニッキ（以下、当社）の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料には当社の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。
- また、経済動向、他社との競合状況などの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

株式会社ニッキ 総務部経理課

TEL : 046-285-0228 / E-mail : ir@nikkinet.co.jp